

第 25 回 丹沢大山自然再生委員会（令和 6 年度総会）
議事録

日時： 令和 6 年 6 月 28 日（金） 13:00～16:00

会場： 神奈川中小企業センタービル 14 階 多目的ホール

○事務局 新谷

それでは定刻となりましたので、第 25 回丹沢大山自然再生委員会総会を開会いたします。開会に先立ちまして、数点ご説明させていただきます。

本日のご出席予定のテレビ神奈川の角田様ですが、遅れるというご連絡をいただいております。

本日の資料の中につきましては事前に郵送させていただいておりますが、お持ちになられなかった方、不足等がある方は事務局までお申しつけ下さい。

その他の差し替え資料という事で、資料 6 を机上にお配りしております。また参考資料といたしまして、2023 年度丹沢大山自然再生活動報告会開催記録、丹沢大山自然再生委員会のパンフレットをお手元にご用意いたしましたので、後ほどご覧ください。

それではただいまから第 25 回丹沢大山自然再生委員会総会を開会させていただきます。

本日現時点におきまして、委員 43 名のうち出席者 23 名、委任状提出 10 名、書面評決により賛成 3 名、合計で 36 名となります。議案はこの 36 名の過半数をもって決することをご報告いたします。ここからの議事進行につきましては勝山委員長にお願いいたします。

○勝山委員長

再生委員会委員長の勝山でございます。本日はお忙しいところ、また荒れ模様の天気の中、丹沢大山自然再生委員会の総会にお集まりくださいまして、誠にありがとうございます。

今回の総会も昨年同様に対面の開催となりました。1 月に行われた活動報告会も 4 年ぶりに対面で行う事が出来ております。今紹介がありましたが、皆様のお手元に立派な開催記録ができておりますので、ご覧いただき、ご利用いただければありがたいと思います。

昨年の報告会は関東大震災から 100 年という事で、それをテーマに関東大震災の時に丹沢でどんなことが起こったのか、またそれ以降丹沢がどういう風が変わって今日になってきたのかという事をそれぞれの演者の方からご報告いただきました。100 年前の関東大震災ですが、再生委員会がやっている森林の再生も 50 年 100 年と経ってみて結果が見えてくる、非常に息の長い事ではないかと思えます。そういう意味で広い視野で 100 年を振り返り、今後のヒントになればと思います。

この再生員会の総会も、今回 25 回目という事で、2006 年設立という事ですが、一年に 2 度総会を開いたこともあるのか、会を重ねております。この間、自然再生事業もそれぞれの所で進んでいますが、東丹沢の堂平などでは当初よりも植生が回復してきて緑が濃くなりつつあって、うまくいっているところもありますが、思うようには進んでいない部分もあります。また平成元年 - 2019 年に大きな台風があって、その被害もすべてが癒されているわけではありません。当初想定されていなかった災害や気候的にも激しいすり替わりになっているようです。

本日の総会ですが、今の丹沢の状況を改めて確認していく、それから長い時間かけてやってきて

いますが、そろそろ節目になってきているのではないかと考えています。そういった流れを背景に、いつもの議案と報告事項の後、3番目に意見交換として、少人数でざっくばらんに、堅苦しく考えずに自由な意見で、これまで参加してきた感想のようなものを頂けると、今後の再生委員会の活動を見直す参考になるのではないかと考えています。総会の前半は例年同様に昨年度の事業実績及び決算を報告していただき、続いて今年度の事業計画と予算についてお伺いして承認を得たいと思っております。また、各専門部会から昨年度の活動状況の報告をいただきたい、最後に今申し上げました意見交換という流れで進めさせていただきます。本日は内容が非常に多いので、円滑な議事の進行をするようにいたしますが、皆さんよろしくお願いたします。

では、議事に入りたいと思います。1号議案 令和5年度事業実績報告、2号議案決算報告を合わせて事務局から説明をお願いします

【第1号議案】令和5年度事業実績報告（企業からの寄付報告含む）

【第2号議案】令和5年度決算報告

<事務局より資料1、2に基づき説明>

○勝山委員長

ありがとうございました。では、次に第3号議案の令和5年度監査報告に入ります。本日出席されている大西監事から決算監査の結果報告をお願いいたします。

【第3号議案】令和5年度監査報告

○大西監事

ウエイズグループの大西でございます。

令和6年6月5日に丹沢大山自然再生委員会の監査を行いましたところ、収支決算が適正に処理されていることを確認しましたのでご報告いたします。以上です。

○勝山委員長

ありがとうございました。それでは1号議案から3号議案までのご質問、ご意見がありましたらお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

<質疑応答>

なし

○勝山委員長

それでは決算を拍手で承認していただければと思います。

○ 一同 拍手

○勝山委員長

ありがとうございました。異議もありませんので拍手で承認をされたということで、ありがとうございます。なお、寄付等のご協力いただきましたウエイズグループ様、どうもありがとうございました。

それでは続いて第4号議案の令和6年度事業計画（案）と第5号議案の令和6年度予算（案）について、まず事務局から説明をお願いいたします。

【第4号議案】 令和6年度事業計画（案）

【第5号議案】 令和6年度予算（案）

<事務局より資料4、5に基づき説明>

○勝山委員長

ありがとうございました。令和6年度事業計画（案）、令和6年度予算（案）について、説明をいただいたところですが、資料4-1にある活動報告会につきましては、議案6で説明したいと思います。それ以外のところでご意見を伺いたいと思いますが、何かご意見はございませんでしょうか。

<質疑応答>

○秦野市 谷委員

資料4-1、7ページの（5）の副読本「私たちの暮らしと丹沢」ですが、こちらの配布先、あるいは希望なのか、内容や使い道を詳しく教えていただければと思います。

○勝山委員長

事務局お願いします。

○事務局 新谷

これまでの使い道ですと、各団体さんが希望された時に配っている状況です。イベントなどの際に使用していると聞いております。

○秦野市 谷委員

そうしますと、これは増刷ということで、何部くらい印刷して、配布希望の照会もあるのでしょうか。

○事務局 新谷

そうですね、照会して希望を募りたいと思います。今現在で2000部を想定しております。

○秦野市 谷委員

内容など使えるものでしたら、こちらも環境教育に力を入れてやっておりますので、ぜひ活用していきたいと思います。よろしくお願いします。

○勝山委員長

他に何かご質問ありましたらよろしくお願いします。よろしいですか。それでは第4号議案 令和6年度事業計画（案）と第5号議題 令和6年度予算（案）について、特に意義はございませんでしたので、拍手で承認とさせていただきます。よろしくお願いします。

○ 一同 拍手

○勝山委員長

本件は承認いただきました。ありがとうございます。それでは続いて6号議案、令和6年度丹沢大山自然再生活動報告会について、事務局から説明をお願いします

【第6号議案】 令和6年度丹沢大山自然再生活動報告会について

<事務局より資料6に基づき説明>

○勝山委員長

どうもありがとうございます。活動報告会の会場は確保出来たとのことですが、中身はこれからですので、この際何か意見を言っておきたいという方がおられましたら、お願いします。幹事会でこれから決めていかないといけないので、要望なり何なりいただけると参考になるので。いかがでしょうか。活動報告会もコロナの間はリモートで開催しまして、やっと前回対面でできて、今年度の活動報告会はまた少し違った形でやりたいというところです。それでは、よろしいですか。このような方向で、幹事会の方で詳細を決めていくということで。

○青砥委員

この後の意見交換の時に話題にしてもいいのではないですか。

○勝山委員長

そうですね、話題にしてもらっていいかと思いますが、もし、活動報告会に限って意見があれば、ここで伺っておければと思いますが。

○秋山部会長

よろしいですか。今回、秦野市で開催されるということで、せっかく秦野市さんが来られているので、何か期待される場所とかありましたら、聞かせていただけると助かります。

○秦野市 谷委員

今回の会場は、少しご不便をかけますが秦野ということで、会場は「秦野市保健福祉センター」になります。秦野駅から徒歩ですと 20 分ちょっとくらい、あとは最寄りバス停から、あと台数は限られますが駐車場もございます。今、秋山先生からもお話しありましたが、秦野と言いますと、やはり里山団体の活動が盛んでありまして、現在 30 弱程度、少し減ってきておりますが、まだ活発に活動しております。こういった活動のご紹介であるとか、あと、間近に丹沢山地を目にすることもできる会場でございますので、丹沢の素晴らしさをより発信できればと思います。よろしくお願いたします。

○勝山委員長

ありがとうございます。

○糸長部会長

秦野市さんをお願いになるのかもしれませんが、可能かどうかは検討かと思いますが、活動報告会は午後からですけど、午前中から現場見学と言いますか、ぜひその里山の人たちとの交流会か、あるいは OECM に登録いただいておりますので、そういう現場を見た方がよろしいかなという感じがしたのですが。無理のない範囲で。

○秦野市 谷委員

そうですね、せっかくの機会ですので、近くでご覧いただける場所があれば。移動手段のことがありますので、ある程度人数が限られてしまうかもしれませんが、その辺り、今後、事務局とも相談をさせていただいて、午前中お時間をとってご案内等できれば。ご協力していきたいと思えます。

○勝山委員長

どうもありがとうございます。その辺り、意見交換しながら方向を決めていきたいと思えます。他にになにかご意見ありましたら。では、よろしいでしょうか。今のご意見を参考にしながら幹事会の方で詰めて参りたいと思えます。それでは、幹事会の方に一任と言うことでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

○勝山委員長

では、これで用意した議案は全て終了ということでございますが、休憩をするには少し早いので、引き続き専門部会からの報告に入りたいと思えます。それでは、報告事項の方で、まず事業計画・評価専門部会から報告をお願いいたします。

【報告事項（1）】 専門部会からの報告について

（ア） 事業計画・評価専門部会

<秋山部会長より資料7にもとづき令和5年度の活動について説明>

○勝山委員長

ありがとうございました。資料を見ながら、何か質問等がありましたら、お伺いしたいと思います。

○秦野市 谷委員

度々申し訳ございません。秦野市の谷です。今回この委員の皆さんのご意見を拝見した中でも、やはりここで、県の進めている水源環境保全税とそれを財源とした補助金ですね、これの成果とそれとこの丹沢大山自然再生委員会のこちらの計画の活動とですね、だいぶリンクしているところとか今後補っていくべきところというのが出ていると思うのですが。やはり丹沢大山は、水源という標高 300m 以上の水源林以外にも、裾野に広がる里山というのも非常に重要なところであると思っております。特にこの里山につきましては、落葉や常緑の広葉樹を中心として、また谷戸などの水辺もあって、生物の多様性の面からの拠点となる地域が多くあると思っております。こういったところは、なかなか手が入りにくかったり、活動するための財源がなかったりというのが実情でございます。今日も、秦野市以外にも厚木市さん、山北町さんも一緒に出席させていただいておりますけれども、我々水源地域の市町でも、神奈川県の方にそれぞれ、市町からの要望であるとか、あるいは丹沢大山のやまなみの連携市町、その他にも神奈川県森林協会であるとか、それぞれ関わる団体から、この令和8年度でいったん終期を迎えるという水源税の存続等について、いろいろ各方面から要望をしている状況でございます。ぜひ、この資料のご意見にもあるように、この自然再生委員会の方からも、現行の水源税、この水源税も今のままというわけにはなかなかいかないかと思しますので、丹沢大山の自然再生という視点から、より生物多様性であるとか、こういった今までの水源税ではなかった部分、里山であるとか生物多様性、こういったところも合わせて提言、要望等をしていただけたらなというふうに、お願いをしたいなと思っております。

○勝山委員長

ありがとうございます。秋山部会長の方から何か。

○秋山部会長

はい、今、谷さんの方からご指摘あった点については、おそらく、丹沢大山自然再生委員会の皆さん共通の課題ということで認識はされているのではないかと思います。1月の活動報告会も、その点について若干触れるべきではないかと、まだまだ事務局の内部の話ですが、内山さん、何かその点で、今現段階で話せることはありますか。

○事務局 内山

はい、事務局の方でも活動報告会の検討をしておりますけれども、やはり、部会の方で、特に評価のところ、水源の取組と丹沢の取組で連携していったらということがありますので、水源の方が評価の方、進行しておりますので、そういったところのすでにある情報も取り入れて、丹沢の方

も検討するというような形で考えているところではあります。

○秋山部会長

はい、そんなところです。

○勝山委員長

どうもありがとうございます。その他に何かございませんでしょうか。こういう形で進めているということで、事業計画・評価専門部会からの報告をしていただきました。この辺り、再生委員会としても議論の核心になるところかと思っておりますので、また何か思いつくことがありましたら、第3部の意見交換の時にでも出していただければと思います。どうもありがとうございました。では、次に県民事業部会からの報告に移りたいと思います。小林部会長から報告をお願いいたします。

(イ) 県民事業専門部会

<小林部会長より資料8にもとづき令和5年度の活動について説明>

○勝山委員長

どうもありがとうございました。県民事業専門部会からの報告をいただきました。何かご質問やご意見がありましたら、お伺いしたいのですが。

○勝山委員長

それでは、これについても、また何か思い浮かぶことがありましたら、第3部の意見交換の時に出していただければと思います。どうもありがとうございました。それでは、県民事業専門部会からの報告をこれで終わらせていただきます。ここで10分間の休憩を入れたいと思います。

(ウ) 調査専門部会

<糸長部会長より資料9にもとづき令和5年度の活動、令和5年度の実施課題について説明>

<糸長部会長より資料9-1~3にもとづき3件の助成研究について説明>

<質疑応答>

○糸長部会長

質問なりご意見はどうでしょうか。今年度は先ほどの金子さんと遠藤さん達の研究が継続なので、こういうことをやって、という希望があればお伝えすることができますので、遠慮なく言って頂ければと思います。

○羽澄委員

2つ目の遠藤さんたちの報告のところで、資料の9の裏側のページに「人間の生活圏で活動する野生動物の現状に対する理解を深めるとともに、動物と人間というすみ分けについて考えることである」という目的が書かれている。これとの関係で、これまでの調査結果をどういうふうにつなげるという流れが2ヵ年の成果の中に読み取れません。その辺の位置付けを整理していただけないと思います。或いはその肉付けに必要な何かデータを取っていただくとか。そうでないと、何か宙ぶらりんな研究になりそうな気がします。

○糸長部会長

今の指摘は、部会のディスカッションでちょっと出たかもしれないですけど。今の目的で言うと、調査地点を里の際のところにしないと羽澄さんの言う事に関しては、直接対応はできないですね。センターの区域内と区域外のところのわけですから、全然人間が住んでいるか住んでないかは、シカやイノシシにしてみれば関係ない。そういう意味でちょっとバイアスがかかってしまっているなっていう感じがするので、そこら辺はもうフェーズを変えるわけにいかないの、その上でどういうことを今後考えたらいいかというあたりかなと思います。

○羽澄委員

少し広くとらえれば、あの場所に人がたくさん住んでいるわけですから、それをどうとらえるかという点だと思います。

○糸長部会長

今の羽澄さんの質問は、カメラをもう1ヶ所、別のところにつけたほうがいいなという話ですか？

○羽澄委員

そうではなくて整理の仕方だと思います。目的との関係でどう整理をつけるのか。保全センターを中心にしたエリアの中での人の活動状況だとか、野生動物の状況だとか、たとえばヒアリングなどをして情報をもう少し集めて、目的に沿った研究成果につなげられると良いと思います。

○糸長部会長

わかりました。その旨伝えていきます。

○秋山委員

秋山です。3つ目の土井先生のリケッチアの話題は本当にいつもその報告を聞くにつけ、重要な研究だと思っていて。これはこの助成研究に関してもしかりとした結果が出されているので、我々がその反省というか、課題というか、これをどう丹沢大山再生委員会として活用していくか。つまりこういった研究が詳細にされればされるほど、一般的にこれが広報されると、丹沢はマダニがいてすごく危険な場所なんじゃないかみたいなふうに思われてしまったり、そうじゃなくて、正しいそのデータと正しい認識でもって、正しく丹沢を活用する、楽しむという形に持っていけない

と、せっきくのこの研究がことさらに危険という認識を高めてしまったり。逆にこの中では緊急のリスクはないと考えられているのに、それを取り上げられてしまっているっていう可能性もあるんじゃないかと。せっきく助成金を出して研究していただいているということで、もう少し我々もこれを取り込んでいくような方向性が必要かなと感想として思いました

○糸長部会長

ありがとうございました。おそらく再生委員会の重要な、継続的な調査項目として、数年おきにちゃんと調査をやっているということが指摘されていますので、それは重要な課題として県の方にも投げかけをしながらやっていきたいと思えます。

○勝山委員長

糸長先生どうもありがとうございました。それではこれで各専門部会からの報告は終わりですが、続いてこの専門部会の報告に関連した情報提供ということで事務局から報告を願います。

【報告事項(2)】 専門部会からの報告に関連した情報提供

<事務局より資料10に基づき説明>

○勝山委員長

あまり時間はないので、ご質問ありましたら、また第3部のほうでお聞きしたいと思います。よろしいでしょうか。では、これで報告事項は終了です。意見交換のほうにはいりたいと思えます。前半では、3つのグループにわかれて意見交換したいと思います。お手元にグループ分けの資料がありますので、ご自分のグループを確認していただき、移動をお願いします。だいたい3時30分までです。Aグループは私、Bグループは糸長さん、Cグループは秋山さんになります。

【意見交換】

<3グループに分かれてそれぞれ20分程度意見交換>

○勝山委員長

それでは、ここからは全体で意見交換したいと思います。まず、各グループで出た意見について、幹事の方から簡単にコメントします。まず、Aグループですけれども、意見が出るか心配でスタートしたのですが、皆さん活発に意見を言っていました。まず、身近なところから、マダニやヤマビルにハイカーがやられるので、その辺りの情報をもっと欲しいという話から始まりまして、マダニにしるヤマビルにしる、シカやイノシシが増えると増えてくるというようなところから、今度はシカもイノシシも、やはり捕獲し続けなければいけない、捕獲の技術も含めて若い人に継承していけないといけない、そのためには、今やっている水源施策の森林の柵とシカをどうするか、必

ず両輪で動いているので、その辺りの細かい具体的な要望をしっかりと出していかないといけないんじゃないのか、といった意見が出ました。それから、森林についても間伐等をやられたあと、そのままではなく今後もやはり手入れをし続けたいといけない、という中でやはり林業の技術も若い人たちに伝えていかないといけない、林業会社の東京チェーンソーズのような話も出て、最後に行き着いたところは、再生委員会も含めてやはり若い人たちに継承していく、それぞれ必要な技術を残していかないといけないというところで、大体まとまったかな、と思います。

○糸長部会長

Bグループは、最初に5分で、それぞれ意見を付箋に書いていただき、まとめるというようなことをしました。いくつかテーマがあるのですが、まず再生委員会のあり方、10年以上やってきて、どういう成果があってどういう課題があって、その中で次の担い手の育成等含めて検討することが重要だということ。それから生物多様性と水源環境保全税の話。また生物多様性でいうと、丹沢の再生委員会の中ではこれまで少し弱かった、というか最初はあまり大きなテーマになっていなかった里山から谷戸から多様性という、このエリアについての学びと体験もできるわけですから、いろいろな人が。そこを重点化していくことが重要でしょうと。そうすると水源環境保全税に対して同じ形の継続という要望でなくて、こういう意味での価値がある、里山とか、そういうところでの価値を高めていくという意味での売りを出していけば、新たな水源環境保全税としての食いつきも出てくるんじゃないかと、というあたりの意見も出ていました。あとは、環境科学センターからの意見があって、水質のモニタリングとDNA、さっきのカゲロウの調査もそうなんです、この辺りの科学的なことも含めて再生委員会とタイアップができないかと、今後ちょっとおっかけていったほうがいいかなと思いました。秦野の活動報告会については、これを契機にして、いい形で地元の人たちにも参加してもらいながら、この丹沢再生委員会の重要性等々ぜひ強めていきたいなど。その時に企業さんとの連携を図りましょうということで、今日も企業の方、何名か来てらっしゃいますけど、これは僕の感想ですが、企業さんお金を出しているけど、それがどういう形で反映していて、いい形ですね、それが自分たちの会社の社員にとってもはげみになるような、あるいは社員教育とかになるような、そんな仕掛けがもう少し見えてくるといいねと。そうすると、自然環境教育系のこともしっかりと一般の人たちも参加してもらいながら。それが広い意味でのオーバーユース対策、山の問題からキャンプ場の問題も含めて解決につなげていけるのかなと。ただそうは言っても人づくりが重要なので、人づくりと言ったときのKey的なものが、やはり末長くお付き合いするのは自治体でしょうと、いろいろな意味で、県とか地元の自治体含めて。そこが、連携取りながらがんばっていける方策がやはり必要だよ、と、だいたいそういうあたりだったかなと。以上です。

○秋山部会長

Cグループです。出た意見の羅列をさせていただくと、まず県の方から情報提供ありました水源税のことにに関して、現在、量的なとか面的な緑の回復というのはなしとげた部分はあったけれども、丹沢大山自然再生の中では、そこを、質的なところがどうかと、今後評価していくなり、求めていく必要があるんじゃないかという意見が出て、それに伴って、やはり野生生物の資源(餌資源)としての評価が大事だろうと。それに関連して登山者の視点からいうと、クマとの接触が多くなったように感じられる。それから登山者を遠ざけてしまう要因としてヤマビルの動向も気になる。

そう言ったことというのが、実際に総量として増えているのかというのは必ずしもわからないし、どういう動態でそういうことが起きているのか、現実に登山者が多いと感じることが何をしているのか、解明する必要があるんじゃないのか。それから、丹沢資料保存会さんから、今年山北町で行われた展示会の紹介があって、そこで衝撃のスクープ写真があって、昭和 47 年の豪雨の際に山北で撮られた濁流の写真があって、それがこれまであまり公開されてこなかった写真だということでした。それから、関東大震災で崩れた丹沢の山肌が全く同じ定点の写真で、回復した様子が紹介されたりして、そして、そういった資料が、実は、今、自然環境保全センターの方に全て寄贈されてアーカイブされたということが報告されました。これもぜひ、1 月の報告会の中でもダイジェストで構わないと思いますが展示をしていただくのがいいのではないかと思いますので、ぜひ事務局のほうでも念頭に入れていただければと思います。それから、まとめとして、我々、とくに奥山城のブナ林の回復など、小さな規模であれば失われたものを 10 年や 20 年のスパンで回復させる技術は見てきたと、ところがそれが大きな規模で全域的な話になってくると回復させるのに 100 年かかるか 200 年かかるかわからない、そういうことがわかってきたと、やはり我々はそれをわかった上で丹沢大山自然再生という施策を進めていく必要があるということを改めて認識した、といった意見が出ました。以上です。

○勝山委員長

ありがとうございました。今の幹事からの報告も含めて、それから幹事さんちゃんと伝えてないよということがありましたら、皆さまのほうから出していただければと思いますけれども。

○オブザーバー 羽太自然環境保全課長

C グループの報告について誤解があるといけなので補足します。部会長から、質がどうかというところで、「野生動物の資源としての評価」とあったのは、ジビエのような意味での資源ではなく、野生動物が食べる餌の資源で、例えば実のなる木がちゃんとあるのかどうかといった視点です。

あと 1 点、グループ討議で言いそびれたことがあり、野生動物との付き合いを考えていくときに、「すみ分け」ということがすごく大事で、奥山の再生と同時に、里山の活用や再生ということが、これから Key になってくるだろうと、皆さんの議論を聞きながら思っていました、時間もなかったので言いそびれてしまいました。これも補足です。

○勝山委員長

ありがとうございました。資源は、餌資源ということで。あとどうでしょうか。県の方でもよろしいです。多分、県の方、遠慮してあんまり発言されていないのかもしれませんが、いかがでしょうか。

○秦野市 谷委員

B グループだったんですけど、先ほど環境科学センターさんの方で、環境 DNA 調査の話が出まして、実は私も、昨年、河川の環境 DNA 調査、県民調査のほうに参加させていただきまして、最近、丹沢の山にしてもそうなんです、川で実際に生き物を採取して調査するというのは非常に限界があって、そこに対して環境 DNA は素晴らしくて、河川の水をとって濃縮して濾して分析すると、あ

る程度上流まで、範囲はあるとは思いますが、そこにいる魚にしても水生昆虫であるとか、そこを通った哺乳類なんかも DNA がでてきたりして、すばらしいんですけども。こういう調査をやって、やはり、基本的なデータというのがないと、いろいろな人に説明をしたり説得をするうえで、非常に信頼性というのか、そういうものが必要になってくると。そこで、DNA 調査というものがこれから重要になってくるのかなと思いました。また、これは、それにかからんで、私が最近驚いているのは、秦野は割と湧水もあって谷戸も多くて、そういったところでドジョウってみなさんご存じかと思いますがドジョウがいるのですが、今まで普通にドジョウはドジョウだと思っていたんですね。そうしたら、そのドジョウもですね、やはり種類があって、在来のドジョウですとか、そのほかにキタドジョウであるとか外からはいつてきたもの、さらには、中国産の柳川鍋なんかで食用として輸入されたドジョウ、本当に見た目では区別がつかないんですけども、こういった DNA 調査をすると、こんな奥深い谷戸に、なぜ中国産の大陸性のドジョウがいるんだと驚くんですけど、そういったこともわかってくると。こういったところから興味をもっていただくということも、ひとつ楽しいところでもあるし、基本的なデータとして活用して丹沢の自然再生、保護というところに役立てていければ非常に面白いかなというふうに感じました。ちょっと感想ですけど。

○勝山委員長

ありがとうございました。

○糸長部会長

グループ討論で出た話題ではないんですけど、ちょっと気になったので。環境科学センターのかたもおられるので。丹沢大山の麓等々は、PFAS（ピーファス）の問題は大丈夫なんですか。私は、東京の多摩のほうなので、地下水の汚染の問題ですね、国分寺のほうでもろにやられてしまっている状態で。上に台地のところに工場があって原因があったりするのですけれども。丹沢の場合はどうのほうにそんなものがないから心配しなくていいのかどうか。秦野は大丈夫なんですか。

○オブザーバー 加藤環境科学センター所長

秦野は若干でていたかと思いますが、現時点では、発生源は不明です。現在、PFAS のうち、我々の方で測定できるのは、3種類だけなんです。それだと組成から発生源の解析ができません。今、考えているのは、もう少し種類を増やして、30種類くらい測定すると、そのパターンから、ある程度発生源が推定できるという情報があるので、そのあたりをチャレンジしてみようかと思っています。すみません、今日はそれくらいしか情報がありません。

○糸長部会長

気になるテーマではあるので。今日はBグループで環境科学センターの方とやり取りさせてもらって、やはりいろいろな意味で科学的な側面での交流ですかね、情報の不足含めて、次にやることは多々あるなと感じました。

○勝山委員長

そうですね、あと羽澄さん。

○羽澄委員

先ほどのグループ討議で時間切れだったのですが、事務局から説明があったかもしれませんが、神奈川県さんは、30by30 だとか、OECM の候補に手を上げるような予定がありますでしょうか。

○オブザーバー 羽太自然環境保全課長

30by30 や OECM は、候補に上げるとか、手を上げるという仕組みではなく、今年 3 月に改訂した県の生物多様性計画では、2つの K P I を掲げていますが、そのうちの一つは、この 30by30 の考え方を取り入れています。制度的に保護されている面積と、制度的には保護されていないけれどもほかの方法で保護されている、いわゆる OECM を合計した面積について数値目標たてて、それをカウントしていきます。さっき説明あったように、丹沢はほとんどが保護エリアですが、周辺部にはそうでない場所もたくさんあります。今、(OECM として) 数字をもっているのは、トラスト緑地だけで、このトラスト緑地は OECM の考えができる前からある、神奈川県独自の OECM 的な仕組みだと思っております。それに加えて、今、地域ごとに民間の方主体で、環境省の自然共生サイトの仕組みに手を挙げて、それに登録されると面積が加算される仕組みとなっています。それをつみあげていくような地域の取組を、いろいろなやり方で応援していきたいと思っております。

県ができることは限られていますが、そういった面でもこの再生委員会と連携・協力し合えれば、世界目標に向けた動きを加速させることもできるかと思っております。神奈川県は、環境省の基準に合わせて計算すると、現状でも 30% を超えています。それで満足しないでさらに上積みしようとしています。丹沢の場合は、その中でも保護エリアの大きい地域なので、ことさら減少した自然を何とか取り戻すということよりも、今あるものの質を上げていくという議論のほうが、多いのかな、と思っております。里山エリアに着目すると、まだいろいろできることはたくさんあると思っております。

○羽澄委員

ありがとうございます。先ほどの秦野市さんの話にもありましたけど、山麓の、希少種でなくても普通の生物相のチェックには、行政サイドで把握するというのは非常に大変な話です。その意味では市民活動や学校教育などを通して地元の生物相のチェックをする、モニタリングをしていく、といった体制をうまく作り上げてしまったほうが、県としては得策ではないかと思われました。そんな議論を再生委員会のなかでもしたらいいと思われました。ありがとうございました。

○勝山委員長

ありがとうございました。話は尽きないところかと思っております。時間がありますので、各グループの討議は記録できていると思っておりますので、幹事会や各部会でも記録をみつつ、今後の再生委員会の活動にいかしていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

○勝山委員長

最後に、その他ですけれども、委員の皆さままでこれ以外の話題でなにかありましたら、お伺いしたいのですけれども。オブザーバーの方でも。

○秋山部会長

よろしいでしょうか。時間のない中、すみません。先ほど、水源税の話がありましたが、最近ニュースとかで森林環境税が取り上げられることが多くなりました。ひとつは増税という観点で目的税としての妥当性といったところが議論されていると思うのですが、それが、我々からするとちょっと乱暴な議論のようにも思えますが、水源施策の件だとか、森林環境税がはいつてきてどうなのか、というのは、これは水源施策のほうが説明責任があることだと思うのですが、森林環境税が、丹沢大山自然再生のほうで、今後、どのように影響してくるかということは、私も正直わかっていない部分もありますし、今後情報を共有させていただけると助かるなと思っておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

○勝山委員長

ありがとうございます。それでは、あとは、事務局からの伝達事項がありましたら、お願いします。

○事務局 内山

本日委員名簿をお配りしておりますが、交代・修正・変更ありましたら事務局へお申し付けください。よろしくお願いいたします。

○事務局 小永井

共催と後援しております事業で、助成金支給を希望しているものについて概算額で申請していただきましたが、本日総会をもって予算を承認していただきましたので、実際の様式の申請書の提出を改めて依頼させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○勝山委員長

どうもありがとうございます。これで今日は終了です。皆さん現場で直接丹沢の再生に携わっている方々で、会議の時はあまり意見が出なかつたりしますが、意見交換では活発にご意見を頂きました。本当にありがとうございます。3つのグループの意見を合わせるとかなり再生委員会で検討しなくてはいけないことが見えてきたと思いますので、またよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございます。これで本日の総会を終了させていただきます。

○事務局 新谷

勝山委員長、議事進行ありがとうございます。ではこれを持ちまして、第25回再生委員会総会を閉会いたします。皆様ありがとうございます。